

事業番号	24
------	----

平成24年度事業評価シート（平成23年度事業の評価）

1. 事業の概要

事業名	青少年教育推進事業				担当課	社会教育課		
事業期間	開始年度	～	終了予定年度		担当係	社会教育係		
総合計画	めざすまちの姿	1 人が育つまち						
	目標	④ 子どもを健やかに育てる（社会教育）						
	成果指標	青少年の科学体験の参加者数			中間目標 (H27)	200人	最終目標 (H32)	250人
		親子体験教室の参加者数						
おちばの里とうげ祭りの参加者数								
予算区分	一般会計	10 款 教育費	6 項 社会教育費	4 目 青少年健全育成費				
	細事業	287 青少年健全育成費						
位置づけ	関連計画							
	根拠法令							
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市 ・ <input type="checkbox"/> 国 ・ <input type="checkbox"/> 県 ・ <input type="checkbox"/> その他							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施・運営 <input type="checkbox"/> 一部又は全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他（							
対象(誰のため)	<input checked="" type="checkbox"/> 全市民 <input type="checkbox"/> 特定の市民 <input type="checkbox"/> 特定の団体 <input type="checkbox"/> その他							
事業の目的 (何のため)	体験イベントを通して学習の大切さや、自然の仕組み、更に人と人とのふれあいを深めることにより、青少年の社会性と道徳心を育成する。							
内容(概要)	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の科学体験 ・親子体験事業 ・おちばの里とうげ祭り事業 ・子ども写生大会 ・子どもフェスタ ・チャレンジクラブ ・夜学会 							
これまでの改善・見直しの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の科学体験→平成15年度に市内企業2社に参加を依頼。H19年度に1社、H20年度に1社が参加し、企業の参加が計4社となる。 							

2. コスト

(単位:千円)

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成23年度事業費
事業費	予算	2,014	2,032	2,060	(内訳)
	決算	1,988	1,984	→	物件費(消耗品費、食糧費、委託料等) 1,984
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源				
職員人件費	2,313	3,515	2,862	人工	0.4 人

3. 事業の評価

事業の実施状況

内容		単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	達成率	
活動指標	青少年の科学体験参加者数	人	目標	700	800	600	100%
		実績	659	802			
	親子体験教室	人	目標	300	300		70%
		実績	387	210			
		人	目標				
			実績				

実績・改善	平成23年度活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の科学体験事業の開催→地球環境を守り潤いのある豊かな自然を育てるためには、科学技術が必要である。その科学技術を支えるのは青少年である。青少年に科学の楽しさ、不思議さ、大切さを実感させるために実施する。 ・おちばの里とうげ祭り事業の開催→知波田小学校から大知波峠廃寺跡までのハイキングを実施し自然とのふれあいを楽しむことや、廃寺跡では各種催しを行い、文化財や自然、参加者同士のふれあいを深めることが出来る場を提供した。 ・子ども写生大会の開催→子どもたちの自然に親しむ体験を通して、郷土の風景の美しさに気付かせ、表現意欲を高めるとともに、郷土への誇りを持たせるなどの、青少年の健全な育成を図ることを目的に事業を実施する。 ・子どもフェスタの開催→異学年交流を目的とした子ども会活動の中の一環として、市内全地区が一堂に会する子どもフェスタを開催している。同地区の良学年は元より、普段触れ合うことの無い他の学校の子どもの同士が触れ合う場を提供した。 ・チャレンジクラブの開催→小学生（4年生～6年生）が自然や歴史、文化に親しみ先人の知恵に学ぶ。そのような体験活動を通して生きる力を身につけ、人間形成の場を提供する。 				
	課題・問題点となった事項	<ul style="list-style-type: none"> ・参加ブースが16となり、会場が手狭となっている（青少年の科学体験事業） ・実行委員会の開催について、2回行っていたが1回にして欲しいとの指摘があった。 				
	どう対処したか	<ul style="list-style-type: none"> ・開催場所や場所取り、実行委員会の開催回数について、次回に活かせるように、参加校や参加企業に聞き取りをおこなった。（科学体験事業） 				
	改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校の参加を隔年参加とすることで、会場の会場を広く確保することを検討した。（科学体験事業） 				効果額 H24-H23 (千円)

自己評価	事業目的の達成状況	青少年の科学体験、親子体験教室、おちばの里とうげ祭り等の参加者数は年ごとに変動があるものの目標を概ね達成しているといえる。				
	※必要性事業を廃止・休止したときの影響	体験活動できる機会を提供することが出来なくなり、青少年の健全育成を図る場の提供が出来なくなる。				
	判定	B 改善	事業内容の見直しが必要	事業主体	市及び一部委託	
	判定理由	青少年の科学体験については、H23年度監査により同種事業を行っている発明クラブに委託する等の案が出ており、事業主体の検討も必要である。				
	今後の方向性	子どもや親子の体験や交流の場を増やすとともに、事業主体の見直しも図り、より効率的な業務の遂行が必要がある。				